

令和7年度社会共創学部履修コースの変更等について【予告】

令和5年1月12日
愛媛大学社会共創学部

1. 学部改組の背景

社会共創学部は平成28年4月に設置され、文理融合の多彩な教育展開、実践力の育成、学部独自のキャリア教育等により、地域と協働しながら課題解決策を企画・立案することができる人材を育成し、社会に輩出してきました。しかし、この間、デジタル化やグローバル化の進展、少子高齢化や自然災害発生などで社会を取り巻く環境は大きく変化し、地域課題の不確実性と複雑性が顕在化してきています。

社会共創学部では、こうした社会環境の変化に対応するため、細分化された教育分野を統合し、専門領域の体系化の一層の強化を図ります。そのために、令和7年4月以降に各学科（産業イノベーション学科を除く）の履修コースを集約し、学生が幅広い専門知識や技能等を修得することが可能となるカリキュラムを導入します。そして、知的活動と展開を通して、理論と実践を融合した共創的課題解決力を身につけた、持続可能な地域社会を牽引する未来創造型人材の育成を目指します。

■変更前（令和6年度まで）

学 科	履修コース
産業マネジメント学科	産業マネジメント履修コース
	事業創造履修コース
産業イノベーション学科	海洋生産科学履修コース
	紙産業履修コース
	ものづくり履修コース
環境デザイン学科	環境サステナビリティ履修コース
	地域デザイン・防災履修コース
地域資源マネジメント学科	農山漁村マネジメント履修コース
	文化資源マネジメント履修コース
	スポーツ健康マネジメント履修コース

■変更予定（令和7年度以降）

学 科	履修コース
産業マネジメント学科	—
産業イノベーション学科	海洋生産科学履修コース
	紙産業履修コース
	ものづくり履修コース
環境デザイン学科	—
地域資源マネジメント学科	—

2. 各学科における令和7年度履修コース変更の概要

【産業マネジメント学科】

経済のグローバル化に伴い、地域経済のあり方は大きく変化しています。愛媛県をはじめとした地域産業の多くは、事業者数の減少や担い手不足といった課題に直面しています。産業マネジメント学科には、これまで経済学や地域産業に重点を置いた「産業マネジメント履修コース」と、経営学や会計学等の分野に重点を置いた「事業創造履修コース」がありましたが、地域の課題をより多面的かつ総合的に捉える必要性に鑑みて2つのコースを統合します。

本学科は、地域社会やそれを支える地域経済が抱える諸問題を、経済学・経営学的視点から捉えます。とりわけ、地域経済の構成要素である「企業」・「住民」・「自治体」について、さらには企業を構成する「ヒト」・「モノ」・「カネ」・「情報」といった要素を経済学的・経営学的視点から学び、これらを実社会で適切に実践するため、地域企業と連携して各種プロジェクトの実践に取り組みます。本学科での学びを通して、地域産業の持続的な発展のために、地域企業が抱える諸課題に高い関心を持ち、地域ステークホルダーと協働しながら、課題の本質を適切に捉える能力、解決策を策定する能力、さらには新事業の構想・創出に関わる知識と実践力を身につけた地域産業人材を育成します。そのために、経済・経営に関する理論的基礎を、より幅広く修得できるようなカリキュラムを設計します。また、文理横断的な視点に立ち、特に、数理的思考やデータを読み解く力を養うための科目を導入します。

【産業イノベーション学科】

地域産業は地域振興の中核的存在として、これまで大きな役割を果たしてきましたが、近年のデジタル化やグローバル化の中では、様々な産業分野において更なる革新や多面的な活動が求められています。

産業イノベーション学科の海洋生産科学・紙産業・ものづくりの各履修コースは、関連する産業ニーズに対応した人材育成を重視し、入学当初から当該産業領域におけるキャリア形成の意識と、各履修コースの学びと就職先とのマッチングを高められる教育を実践しています。また、3年次以降の実践的な学びのフィールドが地域に根ざした研究拠点である南予水産研究センター（海洋生産科学履修コース）や紙産業イノベーションセンター（紙産業履修コース）となるため、現状の3コースを維持します。

教育プログラムでは、特にデータサイエンスや統計学的手法、数理的思考を重視し、各専門分野において数的根拠に基づいた論理的思考力と技能を身につけ、フィールドでの実践を通して理論と技術の定着を図ります。さらに、技術革新に不可欠な経営とマネジメントに関する基礎知識を修得することで、多様な視点から産業分野の持続的な発展に貢献できるイノベーション創造型人材を育成します。

【環境デザイン学科】

地球環境問題の深刻化や巨大災害の頻発化をはじめ、人間と環境との関係のあり方が問われています。本学科では、「環境」を自然環境と社会環境から成り立つものと捉えた上で、「環境サステナビリティ履修コース」では自然環境と人間活動との相互関係、「地域デザイン・防災履修コース」では社会環境と人間活動との相互関係を主な対象領域として、人間と環境との持続可能な関係の創出に向けた研究・教育・地域活動に取り組んできました。地域社会を取り巻く環境がますます複雑化する中、人間活動と自然・社会環境の関係性の全体像を射程に入れながら、地域社会や環境問題を総合的に捉えることの必要性に鑑みて、2つのコースを統合します。

両コース統合の下、自然科学と社会科学のより一層の融合を図りながら、自然環境や社会環境の総合的デザインに係る実践的な知識や技術に基づいて、地域社会が抱える危機を捉え、人と自然が共生する持続可能な地域社会を共に築き上げる未来共創型人材の育成に取り組めます。そのため、自然環境・社会環境・人間活動の相互関係に関する専門知識や技能を身につけ、国内外のフィールドを対象にした協働実践を通じて、全体を俯瞰するグローバルな視点を持ちながら、地域ステークホルダーとともに持続可能な地球環境や地域社会の将来ビジョンを創造するデザイン力とマネジメント力を修得する教育カリキュラムを設計します。

【地域資源マネジメント学科】

地域資源とは、自然環境や人、社会や産業、文化など地域に存在する特徴的なもので、人間の活動に利用可能な有形・無形のことを指します。人口減少や少子高齢化、都市や農山漁村の様々な社会課題に対して、地域を支える人々が、それぞれの地域の特性を理解し、地域資源を持続的に生かすことにより、レジリエントな地域社会をつくることが重要とされています。

このような社会の動向を踏まえ、地域資源マネジメント学科では、これまでの3コース（「農山漁村マネジメント履修コース」「文化資源マネジメント履修コース」「スポーツ健康マネジメント履修コース」）を統合し、専門分野の横断的な学びを強化します。そして、都市や農山漁村などそれぞれの地域の条件や特性を理解し、地域に根差した多様な資源を生かすことで、人々が健康で豊かに生きる文化的な社会を構築し、地域振興・地域づくり・観光まちづくり等を担える人材を育成します。

教育プログラムでは、地域資源に関わる幅広い専門知識や研究能力を身につけ、実社会で活用・創造等ができるマネジメント力を修得し、協働的な視点から多様な地域ステークホルダーとネットワークをつくり、地域資源を生かす実践活動を展開します。

このような実践的な教育活動を通じて、新しい時代の価値創造と地域づくりを担える未来志向型人材を目指します。